

領 域	専門分野Ⅱ (老年看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名	老年看護学概論	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	池ヶ谷 知美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 28年目)		
<p><科目目標> 老年期にある人の特徴・看護の機能と役割について理解する。高齢者の生活を支える保健医療福祉制度や活用方法及び高齢者の権利擁護について理解する。</p>			
<p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 老年期とは 老年期の定義と老年看護学の位置づけ 2. 高齢社会の現状 1) 高齢者人口の推移 2) 平均寿命の推移 3) 高齢者の健康と健康障害 4) ライフサイクルの変化	講義	
2	3. 高齢者の健康 4. 高齢者と家族 5. 高齢者と家族を支える関連職種	講義	
3～4	6. 老年看護の対象の特徴 1) 身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響 2) 認知機能の変化の特徴と日常生活への影響 3) 社会的変化の特徴と生活への影響 (1) 社会的役割の変化：就労・雇用、経済性 (2) 家庭での生活上の役割の変化 (3) 生きがい、生活の満足感	講義 GW演習 発表	
5	7. 高齢者疑似体験 1) 高齢者疑似体験計画 2) 高齢者疑似体験の実際 3) 高齢者疑似体験後の学びの共有	演習	
6	8. 老年を生きる人々の特徴 1) 老年期の発達と成熟・発達課題・セクシュアリティ 2) 高齢者の多様性とリロケーション	講義	
【課題1】「ライフストーリー」家族や知り合いの高齢者にインタビュー (冬季休業中の課題)			
7	9. 高齢者社会における権利擁護	講義	
8～10	10. 老人保健・医療・福祉の動向 1) 高齢者の人権、自己決定の尊重 2) 老人福祉法から高齢者の医療の確保に関する法律までの経過 3) ゴールドプランからゴールドプラン21までの経過 4) 高齢者の保健活動	講義	
11	10. 老人保健・医療・福祉の動向 5) 介護保険制度	講義	
12～13	10. 老人保健・医療・福祉の動向 5) 介護保険サービス「介護保険サービスの実際についての現状と調査」	GW演習 発表	

領 域	専門分野Ⅱ (老年看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名	老年看護学概論	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	池ヶ谷 知美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 28年目)		

回	授業内容	授業方法
14	11. 老年看護の機能と役割 1) 生活の視点にたった QOL を高める看護 (寛ぎと安心・安全) 2) フレイルとサルコペニア、エンパワメントなどについて	講義
15	12. 老年看護活動の場の拡大とチームワーク・システム作りの重要性	講義 演習

授業の進め方

講義、グループワーク演習、高齢者疑似体験やライフヒストリー聴取等を通して、老化が身体に及ぼす影響や心の変化、日常生活への影響などについて考える。
老年期の特徴についてはグループ毎にまとめ発表する。課題に沿った内容整理、発表での媒体の工夫やまとめ方についても考える機会とする。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)
3. 国民衛生の動向 2020/2021年版(厚生統計協会)

評価方法

筆記試験
レポート、グループワークの課題、授業参加状況
以上より総合的に評価する

領 域	専門分野Ⅱ (老年看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅰ (高齢者の日常生活援助)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち22時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	池ヶ谷 知美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師28年目) 幸 邦子 (別府医療センター・摂食嚥下障害認定看護師・看護師34年) 山本 幸子 (別府市朝日地域包括支援センター・看護師・18年)		
<p><科目目標> 加齢によって起こる身体・精神機能の変化や高齢者のQOLを理解し高齢者の生活機能の保持増進への援助を理解する。また、これまで学んだ知識や技術を統合し高齢者の日常生活における援助技術を理解する。</p> <p><内容></p>			
回	内 容	授業方法	
1	1. 高齢者とQOL 2. 高齢者の生活機能と包括的アセスメント 1) 高齢者の生活機能評価(ICF)、基本的日常生活動作(BADL)と手段的日常生活動作(IADL)の必要性について 2) 高齢者における生活機能障害のとらえ方 3) 評価の視点 3. 高齢者と住環境 1) 高齢者の活動性を高める設備や配慮(住宅改造) (1)バリアフリー (2)セキュリティ	講義	
2～3	4. 活動(転倒・転落) 1) 骨折のメカニズム(骨粗鬆症の病態、加齢における転倒・転落の要因) 2) 転倒転落アセスメントスコアシートを利用した要因分析 3) 転倒・転落予防への看護 4) 骨粗鬆症の治療及び予防のための援助 5. 運動とレクリエーション 1) 運動機能(活動性)の変化と生活への影響 2) 活動性拡大に向けた援助 6. 休息(睡眠障害) 1) 高齢者の睡眠の特徴(高齢者のレム睡眠とノンレム睡眠) 2) 睡眠障害の病態と要因 3) 睡眠障害の予防と回復に向けた看護 4) 睡眠導入剤の種類と適応 7. 廃用症候群にある高齢者の看護 1) 廃用症候群の要因 2) 廃用症候群の高齢者への看護	講義	
4	8. 介護予防に取り組むための支援 (講師:山本 幸子) 1) 運動機能向上プログラムや閉じこもり予防のプログラム 2) 日常生活と運動	講義 演習	

領 域	専門分野Ⅱ (老年看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅰ (高齢者の日常生活援助)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち22時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	池ヶ谷 知美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師28年目) 幸 邦子 (別府医療センター・摂食嚥下障害認定看護師・看護師34年) 山本 幸子 (別府市朝日地域包括支援センター・看護師・18年)		
回	内 容	授業方法	
5～6	9. 咀嚼・嚥下機能に障害を持つ高齢者の看護 (講師:幸 邦子) 1) 咀嚼・嚥下障害を来たす要因 2) 食生活のアセスメント 3) 摂食時の援助 (1) 食へることへの意欲の維持・向上 (2) 食事形態の工夫 (3) 食器や自助具の工夫 (4) 口腔ケア 4) 危険を予測した観察と看護 誤嚥性肺炎、窒息、主体性の低下、スキントラブル、 脱水、低栄養など	講義 演習	
7	10. コミュニケーションのための基本的援助 ユマニチュード 11. 感覚機能が低下した高齢者とのコミュニケーション 1) 視覚障害 (1) 高齢者の視覚障害の病態と要因 (2) 視覚障害の程度と生活機能への影響と看護 2) 聴覚障害 (1) 高齢者の聴覚障害の病態と要因 (2) 聴覚障害の程度と生活機能への影響 (3) 補聴器を使用する高齢者とその家族への援助 12. 構音障害、失語症の高齢者のコミュニケーション 13. セクシュアリティの理解と援助	講義	
8	14. 排泄 1) 高齢者における排泄と自立の維持の意味 2) 高齢者に起こりやすい排泄障害 (1) 尿失禁 ① 高齢者の尿失禁の病態と要因 ② 尿失禁の援助 (2) 便秘・下痢 ① 高齢者の便秘・下痢の病態と要因 ② 便秘・下痢の援助 3) おむつを使用している高齢者への援助 15. 脱水の予防と看護 1) 高齢者の脱水の病態と要因及び悪化することで 引き起こされる症状 2) 脱水の予防と援助	講義 演習	

領 域	専門分野Ⅱ (老年看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅰ (高齢者の日常生活援助)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち22時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	池ヶ谷 知美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師28年目) 幸 邦子 (別府医療センター・摂食嚥下障害認定看護師・看護師34年) 山本 幸子 (別府市朝日地域包括支援センター・看護師・18年)		

回	内容	授業方法
9	16. 排泄援助の実際 1) おむつ装着と使用時の援助 事前課題: テキストをもとにオムツ装着時のケアについてまとめる。	演習
10	17. 清潔 1) 高齢者の特徴 (1) 皮膚の老化 (2) 弾力性の低下 (3) 乾燥 (4) 感覚(温覚)機能の低下 2) 清潔への援助方法 (1) 入浴の援助と留意点 (2) 清拭の援助と留意点 (3) 口腔(義歯含)の清潔と留意点 (4) フットケアが心身に及ぼす影響と爪切りの留意点 3) 高齢者の褥瘡予防への援助	講義 演習
11	18. 清潔(演習) 1) ニッパーを使用しての爪きり 2) 義歯のケアと装着	演習

授業の進め方

加齢が及ぼす症状や生活行動への影響に着目し、その要因を理解し考える。生活行動では日常生活行動だけでなく住環境にも着目し、高齢者が社会で生活するための環境を考える。このように、高齢者の生活行動から援助を考え、高齢者のQOLとは何かを理解する。

また、社会との関わりで必要となるコミュニケーションの阻害要因と看護を理解し、高齢者のコミュニケーションを理解する。ただし、認知機能の障がいがある高齢者のコミュニケーションに関しては、認知症高齢者の看護で教授する。

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)
2. 新体系看護学全書 29 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護(メヂカルフレンド社)
3. 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院)
4. 看護 形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ(日本看護協会出版会)
5. カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術(医歯薬出版株式会社)

評価方法

筆記試験、レポート、演習における参加状況を総合的に評価する

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期						
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅰ (認知症高齢者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち8時間						
講 師 (所属・職位等・実務経験)	雨宮 洋子 (社会福祉法人泰生会・理事長・34年)								
<p><科目目標> 加齢によって起こる身体・精神機能の変化や高齢者のQOLを理解し高齢者の生活機能の保持増進への援助を理解する。また、これまで学んだ知識や技術を統合し高齢者の日常生活における援助技術を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 認知症高齢者を理解し、取り巻くケアシステムと援助の実際が理解できる。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～4</td> <td> 1. 認知症高齢者の看護 1) 認知症への理解 (1) 病態と発生メカニズム (2) 予防的アプローチ (3) 認知機能評価(スケール) 2) 環境ケアとコミュニケーション (1) 環境と環境調整 (2) 安全面への対処 (3) 対応の実際 3) 認知症高齢者の家族への支援 4) 認知症高齢者のケアシステム </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	授業方法	1～4	1. 認知症高齢者の看護 1) 認知症への理解 (1) 病態と発生メカニズム (2) 予防的アプローチ (3) 認知機能評価(スケール) 2) 環境ケアとコミュニケーション (1) 環境と環境調整 (2) 安全面への対処 (3) 対応の実際 3) 認知症高齢者の家族への支援 4) 認知症高齢者のケアシステム	講義
回	内容	授業方法							
1～4	1. 認知症高齢者の看護 1) 認知症への理解 (1) 病態と発生メカニズム (2) 予防的アプローチ (3) 認知機能評価(スケール) 2) 環境ケアとコミュニケーション (1) 環境と環境調整 (2) 安全面への対処 (3) 対応の実際 3) 認知症高齢者の家族への支援 4) 認知症高齢者のケアシステム	講義							
<p>授業の進め方 認知症の病態と認知機能の評価について学習し、対象の状態に応じた日常生活援助の方法や留意点、認知症の高齢者を支えるケアシステム、家族支援のありようについて学習する。 最終日には、DVDの事例にて考えさせる。</p>									
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院) 									
<p>評価方法 筆記試験</p>									

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅱ (治療を受ける高齢者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち8時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師22年)		
<p><科目目標> 薬物療法や手術療法を受ける高齢者の看護・高齢者に特徴的な健康問題を持つ患者の看護・終末期にある高齢者の看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 高齢者の入院時、退院時の看護を理解することができる。 2. 薬物療法や手術療法を受ける高齢者の特徴と看護を理解することができる。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 入院を必要とする高齢者の看護 (認知症高齢者の急性期一般病床での援助を含む) 1) 高齢者の入院 2) 生活適応を支援する看護活動 3) 生活適応を支援するケア 2. 退院時の看護と継続看護 1) 退院計画立案に向けたアセスメント 2) 退院に向けた高齢者と家族の意思決定への支援 3) 退院に向けたチームアプローチ 4) 退院指導	講義	
2～3	3. 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 服薬管理とリスクマネジメント (1) 複数の疾患を罹患していることによる影響 (2) 副作用をまねきやすい薬物 (3) 服薬管理 3) 薬物療法時の看護の要点 (1) 薬物療法時の看護師の役割 i. 薬物副作用の徴候の観察・評価 ii. 薬物副作用の予防 iii. 服薬過誤の予防と看護 4) 高齢者の在宅を考慮した服薬	講義	
4	4. 手術を受ける高齢者の看護 1) 麻酔・手術侵襲が高齢者に与える影響 2) 高齢者の手術療法におけるインフォームド・コンセントと看護師の役割 3) 術前準備における高齢者への援助 (1) 検査・手術に関する説明と了解 (2) 術前指導 4) 手術中における高齢者への援助 5) 術後合併症の予防と援助 (1) 早期離床への援助 (2) 術後せん妄と看護 (せん妄の病態と要因と予防のための援助、せん妄発生時の治療と援助)	講義	

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅱ (治療を受ける高齢者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち8時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師22年)		
<p>授業の進め方</p> <p>入院により生活上の変化を余儀なくされる高齢者は、生活リズムの変調によって問題が生じやすい。高齢者は複数の疾患を有することから、薬物も多剤を服用する特徴をもつ。しかし、肝・腎機能の低下や様々な要因により作用だけでなく副作用も出現しやすい。また、服薬コンプライアンスの低下から自己管理も困難な状況もある。講義を通して、このような高齢者の特徴を理解した援助を考える。また、手術療法を受ける看護については、身体機能の低下や複数の疾患を有することから、手術後の回復に時間を要し、術後の合併症も起こしやすい高齢者の特徴を理解した、術前・術中・術後の看護を学習する。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院) 3. 新体系看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護(メヂカルフレンド) 			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、レポート評価</p>			

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期						
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅱ (高齢者の特徴的な看護： 白内障患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち2時間						
講 師 (所属・職位等・実務経験)	中野 遊 (別府医療センター・看護師・7年)								
<p><科目目標> 薬物療法や手術療法を受ける高齢者の看護・高齢者に特徴的な健康問題を持つ患者の看護・終末期にある高齢者の看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 白内障の高齢者の特徴や症状・治療が及ぼす生活への影響を考えることができる。 2. コミュニケーション方法を理解し看護の実際を学習する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 白内障患者の看護 1) 病態及び症状 2) 白内障治療時の援助 (1) 手術療法 (2) 薬物療法 (点眼) 3) 生活への影響のアセスメントと看護 (1) 視力障害の影響 (2) 感染リスクの要因 (3) セルフコントロールの状態 (4) 予測される危険性(排泄行動の影響、生活リズムの乱れ) 4) コミュニケーションに障害のある白内障症患者の看護 (日常生活の把握、非言語的コミュニケーションを用いた評価) (1) 高齢者の入院における心理 (2) 入院生活や治療適応を支援する看護活動 </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 白内障患者の看護 1) 病態及び症状 2) 白内障治療時の援助 (1) 手術療法 (2) 薬物療法 (点眼) 3) 生活への影響のアセスメントと看護 (1) 視力障害の影響 (2) 感染リスクの要因 (3) セルフコントロールの状態 (4) 予測される危険性(排泄行動の影響、生活リズムの乱れ) 4) コミュニケーションに障害のある白内障症患者の看護 (日常生活の把握、非言語的コミュニケーションを用いた評価) (1) 高齢者の入院における心理 (2) 入院生活や治療適応を支援する看護活動	講義
回	授業内容	授業方法							
1	1. 白内障患者の看護 1) 病態及び症状 2) 白内障治療時の援助 (1) 手術療法 (2) 薬物療法 (点眼) 3) 生活への影響のアセスメントと看護 (1) 視力障害の影響 (2) 感染リスクの要因 (3) セルフコントロールの状態 (4) 予測される危険性(排泄行動の影響、生活リズムの乱れ) 4) コミュニケーションに障害のある白内障症患者の看護 (日常生活の把握、非言語的コミュニケーションを用いた評価) (1) 高齢者の入院における心理 (2) 入院生活や治療適応を支援する看護活動	講義							
<p>授業の進め方</p> <p>白内障患者の看護について、疾患の病態、症状を理解し、生活への影響を考える。高齢者は入院によって日常生活や生活行動に規制が生じる。治療上必要な規制とそれまでの習慣を取り入れて生活を整え、退院後の生活リズムを獲得できるように支援する方法について、講義を通して考えを深めていく。また、高齢者は感覚機能低下がみられることから、白内障で、コミュニケーションに障がいのある患者の看護についても、ここで考えを深めさせる。</p>									
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [13] 眼 (医学書院)</p>									
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>									

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期						
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅱ (高齢者の特徴的な看護： 前立腺肥大症患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち4時間						
講 師 (所属・職位等・実務経験)	秋好 美希 (別府医療センター・副看護師長・9年)								
<p><科目目標> 薬物療法や手術療法を受ける高齢者の看護・高齢者に特徴的な健康問題を持つ患者の看護・終末期にある高齢者の看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 前立腺肥大症の高齢者の特徴的な症状や治療から生活への影響を考えることができる。 2. 排尿障害のある高齢者の看護を学習する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～2</td> <td>1. 前立腺肥大症患者の看護 1) 病態及び症状 2) 生活への影響のアセスメントと看護 (1) 排尿障害の種類(頻尿、排尿困難、尿失禁) (2) 排尿障害にある人の看護(排尿障害の状況、尿閉のアセスメント、頻尿による睡眠障害、家族のサポート状況)</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1～2	1. 前立腺肥大症患者の看護 1) 病態及び症状 2) 生活への影響のアセスメントと看護 (1) 排尿障害の種類(頻尿、排尿困難、尿失禁) (2) 排尿障害にある人の看護(排尿障害の状況、尿閉のアセスメント、頻尿による睡眠障害、家族のサポート状況)	講義
回	授業内容	授業方法							
1～2	1. 前立腺肥大症患者の看護 1) 病態及び症状 2) 生活への影響のアセスメントと看護 (1) 排尿障害の種類(頻尿、排尿困難、尿失禁) (2) 排尿障害にある人の看護(排尿障害の状況、尿閉のアセスメント、頻尿による睡眠障害、家族のサポート状況)	講義							
<p>授業の進め方</p> <p>前立腺肥大症患者の看護について、疾患の病態、症状を理解し、生活への影響を考える。高齢者は入院によって日常生活や生活行動に規制が生じる。治療上必要な規制とそれまでの習慣を取り入れて生活を整え、生活リズムを獲得できるように支援する方法について、講義を通して考えを深めていく。</p>									
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院)</p>									
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>									

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期												
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅱ (高齢者の特徴的な看護： 慢性腎不全患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち6時間												
講 師 (所属・職位等・実務経験)	安部 佐和美 (別府医療センター・透析看護認定看護師・看護師16年)														
<p><科目目標> 薬物療法や手術療法を受ける高齢者の看護・高齢者に特徴的な健康問題を持つ患者の看護・終末期にある高齢者の看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 慢性腎不全の高齢者の特徴的な症状や治療による生活への影響を考えることができる。 2. 治療や日常生活における機制を理解し、看護の実際を学習する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 慢性腎不全患者の看護 1) 病態及び症状 浮腫、高血圧、尿毒症 2) 腎不全における検査と援助 3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 透析療法(導入期の援助)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 (4) 腹膜透析を受ける患者の看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 (5) 血液透析を受ける患者の看護</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 慢性腎不全患者の看護 1) 病態及び症状 浮腫、高血圧、尿毒症 2) 腎不全における検査と援助 3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 透析療法(導入期の援助)	講義	2	3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 (4) 腹膜透析を受ける患者の看護	講義	3	3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 (5) 血液透析を受ける患者の看護	講義
回	授業内容	授業方法													
1	1. 慢性腎不全患者の看護 1) 病態及び症状 浮腫、高血圧、尿毒症 2) 腎不全における検査と援助 3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 透析療法(導入期の援助)	講義													
2	3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 (4) 腹膜透析を受ける患者の看護	講義													
3	3) 腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助 (5) 血液透析を受ける患者の看護	講義													
<p>授業の進め方</p> <p>慢性腎不全患者の看護について、疾患の病態、症状を理解し、生活への影響を考える。高齢者は入院によって日常生活や生活行動に規制が生じる。治療上必要な規制とそれまでの習慣を取り入れて生活を整え、退院後の生活リズムを獲得できるように支援する方法について、講義を通して考えを深めていく。腎不全における治療・処置が高齢者に及ぼす影響と援助については、視覚教材を活用しながら考えを深めさせる。</p>															
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器(医学書院) 															
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>															

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期						
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅱ (高齢者の特徴的な看護： 感染症患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち2時間						
講 師 (所属・職位等・実務経験)	福本 渚 (別府医療センター・教育担当師長・感染管理認定看護師18年)								
<p><科目目標> 薬物療法や手術療法を受ける高齢者の看護・高齢者に特徴的な健康問題を持つ患者の看護・終末期にある高齢者の看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 高齢者の感染症の特徴、症状による日常生活への影響と看護、および感染予防の看護を学習する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 感染症患者の看護 1) 感染症の背景と特徴 (1) 身体的要因：加齢による変化(易感染性、認知力の低下、予備力の低下) (2) 感染症が高齢者の生活に与える影響 (3) 高齢者が罹患しやすい感染症 2) 感染症のリスクアセスメント 3) 感染症ケアの実際 (1) 感染の予防 (2) 感染症の早期発見のための高齢者の症状観察 (3) 感染症患者の看護(栄養の保持、清潔の保持、体力の消耗を抑える、脱水の予防) </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 感染症患者の看護 1) 感染症の背景と特徴 (1) 身体的要因：加齢による変化(易感染性、認知力の低下、予備力の低下) (2) 感染症が高齢者の生活に与える影響 (3) 高齢者が罹患しやすい感染症 2) 感染症のリスクアセスメント 3) 感染症ケアの実際 (1) 感染の予防 (2) 感染症の早期発見のための高齢者の症状観察 (3) 感染症患者の看護(栄養の保持、清潔の保持、体力の消耗を抑える、脱水の予防)	講義
回	授業内容	授業方法							
1	1. 感染症患者の看護 1) 感染症の背景と特徴 (1) 身体的要因：加齢による変化(易感染性、認知力の低下、予備力の低下) (2) 感染症が高齢者の生活に与える影響 (3) 高齢者が罹患しやすい感染症 2) 感染症のリスクアセスメント 3) 感染症ケアの実際 (1) 感染の予防 (2) 感染症の早期発見のための高齢者の症状観察 (3) 感染症患者の看護(栄養の保持、清潔の保持、体力の消耗を抑える、脱水の予防)	講義							
<p>授業の進め方 感染症を持つ高齢者の看護について、高齢者の罹患しやすい疾患の病態、症状を理解し、生活への影響を考える。高齢者は入院によって日常生活や生活行動に規制が生じる。治療上必要な規制とそれまでの習慣を取り入れて生活を整え、病院での生活リズムを獲得できるように支援する方法について、講義を通して考えを深めていく。</p>									
<p>テキスト 1. 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院)</p>									
<p>評価方法 筆記試験</p>									

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期									
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅱ (高齢者の特徴的な看護： 大腿骨頸部骨折患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち4時間									
講 師 (所属・職位等・実務経験)	泉 雄大 (別府医療センター・看護師・6年)											
<p><科目目標> 薬物療法や手術療法を受ける高齢者の看護・高齢者に特徴的な健康問題を持つ患者の看護・終末期にある高齢者の看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 高齢者の大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症における特徴的な症状・治療と看護を学習する。 2. 機能障がいによる日常生活の機制に対する看護、機能の拡大に向けた看護を学習する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 大腿骨頸部骨折患者の看護 1) 大腿骨頸部骨折の部位と治療 内側骨折と外側骨折 2) 治療内容と留意点(加齢による特徴もふまえる) (1) 保存療法を受ける患者の看護 徒手整復 牽引療法 (2) 外科療法を受ける患者の看護 骨接合術 人工股関節置換術 3) 急性期、回復期における看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 変形性膝関節症患者の看護 1) 変形性膝関節症の部位と治療 2) 治療内容と留意点(加齢による特徴もふまえる) 3) 急性期、回復期における看護</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護 1) 大腿骨頸部骨折の部位と治療 内側骨折と外側骨折 2) 治療内容と留意点(加齢による特徴もふまえる) (1) 保存療法を受ける患者の看護 徒手整復 牽引療法 (2) 外科療法を受ける患者の看護 骨接合術 人工股関節置換術 3) 急性期、回復期における看護	講義	2	2. 変形性膝関節症患者の看護 1) 変形性膝関節症の部位と治療 2) 治療内容と留意点(加齢による特徴もふまえる) 3) 急性期、回復期における看護	講義
回	授業内容	授業方法										
1	1. 大腿骨頸部骨折患者の看護 1) 大腿骨頸部骨折の部位と治療 内側骨折と外側骨折 2) 治療内容と留意点(加齢による特徴もふまえる) (1) 保存療法を受ける患者の看護 徒手整復 牽引療法 (2) 外科療法を受ける患者の看護 骨接合術 人工股関節置換術 3) 急性期、回復期における看護	講義										
2	2. 変形性膝関節症患者の看護 1) 変形性膝関節症の部位と治療 2) 治療内容と留意点(加齢による特徴もふまえる) 3) 急性期、回復期における看護	講義										
<p>授業の進め方</p> <p>大腿骨頸部骨折・変形性膝関節症患者の看護について、疾患の病態、症状を理解し、生活への影響を考える。高齢者は入院によって日常生活や生活行動に規制が生じる。治療上必要な規制とそれまでの習慣を取り入れて生活を整え、退院後の生活リズムを獲得できるように支援する方法について、講義を通して考えを深めていく。</p>												
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器(医学書院) 												
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>												

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期									
科目名 (単元名)	老年看護方法論Ⅱ (高齢者の終末期の看護)	単位数 (時間数)	1単位(30時間)うち4時間									
講 師 (所属・職位等・実務経験)	池ヶ谷 知美 (別府医療センター大分中央看護学校・専任教員・看護師28年目)											
<p><科目目標> 薬物療法や手術療法を受ける高齢者の看護・高齢者に特徴的な健康問題を持つ患者の看護・終末期にある高齢者の看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 高齢者の終末期の特徴が理解できる。 2. 緩和ケアにおける高齢者のQOLをふまえた看護が理解できる。 3. 看取りを行う家族の支援が理解できる。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 1) 高齢者の死の動向 2. 終末期における生き方や死の迎え方の意向 1) 終末期に携わる医療の変化 人間の尊厳、延命とQOL 2) アドバンスディレクティブ<事前指示> 3) リビングウィル 3. 多専門職種からなる医療・ケアチームによる終末期支援の意義と役割 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> 4. 終末期看護の実践 1) 身体徴候のアセスメントと看護 2) 苦痛の緩和と安楽への看護 3) 精神的苦痛や混乱に対する看護 4) 臨終期の評価と看護 5. 看取りを終えた家族への看護 1) 家族の心理の理解と看護 2) 家族へのグリーフケア 6. 家族の生活への再構築への看護 </td> <td>講義 DVD</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 1) 高齢者の死の動向 2. 終末期における生き方や死の迎え方の意向 1) 終末期に携わる医療の変化 人間の尊厳、延命とQOL 2) アドバンスディレクティブ<事前指示> 3) リビングウィル 3. 多専門職種からなる医療・ケアチームによる終末期支援の意義と役割	講義	2	4. 終末期看護の実践 1) 身体徴候のアセスメントと看護 2) 苦痛の緩和と安楽への看護 3) 精神的苦痛や混乱に対する看護 4) 臨終期の評価と看護 5. 看取りを終えた家族への看護 1) 家族の心理の理解と看護 2) 家族へのグリーフケア 6. 家族の生活への再構築への看護	講義 DVD
回	授業内容	授業方法										
1	1. 終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 1) 高齢者の死の動向 2. 終末期における生き方や死の迎え方の意向 1) 終末期に携わる医療の変化 人間の尊厳、延命とQOL 2) アドバンスディレクティブ<事前指示> 3) リビングウィル 3. 多専門職種からなる医療・ケアチームによる終末期支援の意義と役割	講義										
2	4. 終末期看護の実践 1) 身体徴候のアセスメントと看護 2) 苦痛の緩和と安楽への看護 3) 精神的苦痛や混乱に対する看護 4) 臨終期の評価と看護 5. 看取りを終えた家族への看護 1) 家族の心理の理解と看護 2) 家族へのグリーフケア 6. 家族の生活への再構築への看護	講義 DVD										
<p>授業の進め方 終末期における高齢者の看取りにおけるQOLの尊重と家族を含めた看護について、視覚教材も活用しながら講義をすすめる。</p>												
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院) 2. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア(医学書院) 												
<p>評価方法 筆記試験、レポート</p>												

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期						
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅲ (パーキンソン症候群患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)うち4時間						
講 師 (所属・職位等・実務経験)	脇坂 千晶 (西別府病院・看護師・16年)								
<p><科目目標> 老年看護学概論、老年看護方法論で学んだ知識と技術を統合し、事例を用いて健康障害を持つ高齢者の看護を理解する。</p> <p><単元目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パーキンソン病・パーキンソン症候群の病態と症状、治療を理解する。 2. 加齢や健康障がい対象に及ぼす影響を理解し、健康問題の解決・自立の促進に向けた看護を理解する。 3. 日常生活機能の評価と援助、家族支援やソーシャルサポートを理解する。 <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～2</td> <td> 1. パーキンソン病・パーキンソン症候群患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病態及び症状 2) 治療と援助 3) 生活への影響のアセスメントと看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日常生活の障害度 (2) 疾患の受容の援助 (3) ADLの状態に応じた看護 (食事・排泄・整容・コミュニケーション・生活指導・自律神経症状・症状の日内変動・服薬コンプライアンス・家族のサポート状況) (4) 退院時の社会的資源の活用 </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1～2	1. パーキンソン病・パーキンソン症候群患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病態及び症状 2) 治療と援助 3) 生活への影響のアセスメントと看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日常生活の障害度 (2) 疾患の受容の援助 (3) ADLの状態に応じた看護 (食事・排泄・整容・コミュニケーション・生活指導・自律神経症状・症状の日内変動・服薬コンプライアンス・家族のサポート状況) (4) 退院時の社会的資源の活用 	講義
回	授業内容	授業方法							
1～2	1. パーキンソン病・パーキンソン症候群患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病態及び症状 2) 治療と援助 3) 生活への影響のアセスメントと看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日常生活の障害度 (2) 疾患の受容の援助 (3) ADLの状態に応じた看護 (食事・排泄・整容・コミュニケーション・生活指導・自律神経症状・症状の日内変動・服薬コンプライアンス・家族のサポート状況) (4) 退院時の社会的資源の活用 	講義							
<p>授業の進め方</p> <p>老年看護学の看護の展開では、パーキンソン症候群で日常生活に障害をきたした患者の看護を学習する。パーキンソン病・パーキンソン症候群は進行性の疾患であり、症状の進行や変動に応じた生活支援のあり方や家族支援のあり方を学習する。</p>									
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院) 3. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護(医学書院) 									
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>									

領 域	専門分野Ⅱ (老年看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅲ (看護過程の展開)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (15 時間) うち 11 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 28 年)		
<p><科目目標> 老年看護学概論、老年看護方法論で学んだ知識と技術を統合し、事例を用いて健康障害を持つ高齢者の看護を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 健康障害を持つ高齢者の看護を理解し、老年看護に必要な知識・技術を統合できる。 2. 高齢者特有の看護問題を解決するために各段階における思考のステップの考え方が理解できる。 3. 高齢者の自立や QOL を高めるような援助方法について理解できる。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
【課題 1】 75 歳の男性、パーキンソン病で症状および薬物コントロールのため入院した患者の事例を提示する。疾病論Ⅲ、老年看護学概論や老年看護方法論等の既習学習を活用し、事例患者の理解につながる学習を行う。			
1	1. 老年看護における看護過程展開の特徴 2. 問題解決型思考と目標志向型志向 3. 高齢者の包括的アセスメントとアセスメント指標の活用	講義	
【課題 2】 2 講目開始前までに 1 次アセスメントの記載を行う。			
2	4. 第 1 段階アセスメントの検討 1) 発達段階の特徴の考慮 2) 指標の活用 3) 強み因子の活用 4) 対処機制に影響する因子	講義 グループ ワーク	
【課題 3】 3 講目開始前までに関連図の記載を行う。			
3	5. 関連図の検討 1) 第 2 段階アセスメント・関連図・看護診断を検討し、事例患者の加齢や健康障害から起こるリスク・問題の要因を考える。 2) 介入計画が高齢者の QOL を考えた援助となっているか考える。	講義 グループ ワーク	
【課題 4】 4 講目開始前までに 2 次アセスメントの記載を行う。			
4～5	6. 刺激のアセスメントの検討 1) 症状と日常生活障害の評価 2) 二次的障害のリスク評価 3) 障害・疾病に対する思いと自立への視点 4) 家族の支援とソーシャルサポート 5) 発達理論、セルフケア理論の活用	講義 グループ ワーク	

領 域	専門分野Ⅱ(老年看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	老年看護方法論Ⅲ (看護過程の展開)	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間) うち 11 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 28 年)		

回	授業内容	授業方法
【課題5】 6 講目開始前までに介入計画の記載を行う。		
6	7. 介入計画の検討 1) 強み因子を活かした援助計画 2) 合併症の予防と自立の促進を考慮した援助計画 3) 家族を含めた援助計画 8. 看護の評価	講義 グループ ワーク

授業の進め方

パーキンソン病で日常生活に障害をきたした高齢者の看護過程を展開し、加齢や健康障害が高齢者に及ぼす影響を理解し、高齢者の看護問題と目標設定のありよう、個別性を活かした介入計画とは何か検討していく。

成人看護学等看護過程の既習学習を活かしながら、老年看護学概論、老年看護方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学習内容を統合させ、個人ワーク・グループワーク・全体検討を繰り返し行うことで思考を深化させる。

テキスト

1. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護(医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)
3. 新体系看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護(メヂカルフレンド社)
4. 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院)
5. NANDA-Ⅰ看護診断 定義と分類<2018-2020>(医学書院)

評価方法

筆記試験、レポート、課題、演習参加状況 以上より総合的に評価する。

領 域	専門分野Ⅱ（老年看護学）	開講時期	2年後期
科 目 名	老年看護学基礎実習	単 位 数 (時間数)	2単位（90時間）
講 師 (所属・職位等・実務経験)	大道 真理（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・15年）		
<p><科目目標></p> <p>1. 健康な高齢者の生活と地域の社会資源の理解（地域課題実習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴、発達課題をふまえて、個別的で多様である高齢者の生活を理解できる。 2) 高齢者を取り巻くケアシステムの現状について理解できる。 3) 高齢者の意思を尊重し、尊厳のある姿勢や態度で接することができる。 <p>2. 老化により日常生活機能が低下した高齢者の理解（施設実習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴の個体差を理解できる。 2) 高齢者の健康状態や生活機能低下により日常生活に及ぼす影響について理解する。 3) 認知機能の低下が日常生活に及ぼす影響について理解する。 4) 加齢により低下した健康状態、生活機能をふまえて、対象の個別性や生活習慣、価値観を尊重した援助が理解できる。 5) 高齢者の価値観や思いを尊重し、認知機能の低下による言動の意味を考えながら、コミュニケーションをとることができる。また、自己の発言や言動が高齢者に与える影響について考えることができる。 6) 高齢者を人生の先輩として尊重する態度をもち、豊かな老年観と倫理観を発展させることができる。 7) 高齢者医療保健福祉の法律やその施策を学習し、施設で生活している高齢者に活用されているケアシステムについて理解する。 8) 保健医療福祉チームの一員としての自覚を持ち、専門職業人として望ましい態度がとれる。 <p><学習内容></p> <p>1. 健康な高齢者の生活と地域の社会資源の理解（地域課題実習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴、発達課題をふまえた、高齢者の多様性 2) 高齢者とその家族とのコミュニケーションを通じた、それぞれの思いや考え 3) 高齢者の意思を尊重した、尊厳のある姿勢や態度の実際 <p>2. 老化により日常生活機能が低下した高齢者の理解（施設実習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の加齢に伴う身体的、精神的、社会的特徴の個体差 2) 高齢者の健康状態や生活機能低下により日常生活に及ぼす影響 3) 認知機能の低下が日常生活に及ぼす影響について 4) 加齢により低下した健康状態、生活機能を踏まえて、対象の個別性や生活習慣、価値観を尊重した援助の実際 5) 高齢者の価値観や思いを尊重し、認知機能の低下による言動の意味を考えた、コミュニケーションの実際 また、自己の発言や言動が高齢者に与える影響について 6) 高齢者を人生の先輩として尊重する態度をもち、豊かな老年観と倫理観の育成 7) 高齢者医療福祉の法律やその施策を学習し、高齢者が利用できる施設サービスで生活している高齢者に活用されているケアシステムについて 8) 専門職業人に望ましい態度 <p>※詳細は老年看護学基礎実習要項に準ずる。</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（老年看護学）	開講時期	2年後期
科 目 名	老年看護学基礎実習	単 位 数 (時間数)	2単位（90時間）
講 師 (所属・職位等・実務経験)	大道 真理（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・15年）		
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論（医学書院） 3. 新体系看護学全書 28 老年看護学① 老年看護学概論・老年保健（メヂカルフレンド社） 4. 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院） 5. 基礎看護学技術Ⅰ（医学書院） 6. 基礎看護学技術Ⅱ（医学書院） 7. 看護技術がみえる vol 1 基礎看護技術（メディックメディア） 8. 看護技術がみえる vol 2 基礎看護技術（メディックメディア） <p>他 既習のテキストを活用する。</p>			
<p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第12条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（老年看護学）	開講時期	3年前期・後期
科 目 名	老年看護学実習	単 位 数 (時間数)	2単位（90時間）
講 師 (所属・職位等・実務経験)	池ヶ谷 知美（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・28年）		
<p><科目目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の加齢に伴う変化と、健康障がいを理解できる。 2. 加齢に伴う変化と健康障がい日常生活に与える影響について理解できる。 3. 加齢に伴う変化と健康障がい、個人差を考慮した看護を判断し実践できる。 4. 患者の入院前の生活や退院後の生活を考慮し、継続看護の必要性を理解できる。 5. 高齢者や家族を取り巻くケアシステムから高齢者の家族が必要としている支援について理解する。 6. 高齢者を人生の先輩として尊重する態度をもち、豊かな老年観と倫理観を発展させることができる。 7. 保健医療チームの一員としての自覚を持ち、専門職業人として望ましい態度がとれる。 <p><学習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障がいを持っている高齢者の身体的・精神的・社会的特徴。 2. 高齢者の健康障がいおよび健康障がいに対する治療が生活機能に及ぼす影響。 3. 高齢者特有の症状や健康障がい、治療、看護。 4. 健康障がいにより残存機能が低下した高齢者に対して、残存機能を最大限に活用し、機能の維持・回復の促進にむけた援助。 5. 環境の変化や治療・処置に適応することが困難であることをふまえ、高齢者の生活習慣や価値観を尊重した、適応への援助。 6. 健康障がいのある高齢者が活用できる制度〔長寿医療制度（後期高齢者医療制度）など〕、退院後に社会生活を営むうえで必要な介護保険制度。 7. 高齢者を取り巻く人間関係、特に家族の役割と重要性および、必要な援助の実際。 8. 高齢者を取り巻くケアシステム、継続看護の必要性。 9. 高齢者看護に必要な援助技術の実践。 10. 施設における保健・医療・福祉チームの役割と連携。 11. 高齢者の看護を通して、自己の老年観の育成。 <p>※詳細は老年看護学実習実習要項に準ずる</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護（医学書院） 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 3. 新体系看護学全書 29 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護（メヂカルフレンド社） 4. 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院） 5. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版（医学書院） 6. よくわかる中範囲理論 第2版（学研） 7. NANDA-I 看護診断 定義と分類 <2018-2020>（医学書院） 8. 看護のための臨床病態学（南山堂） 9. 在宅看護論 新版（医歯薬出版） 10. 地域療養を支えるケア（メディカ出版） 11. 看護医学電子辞書 <p>他 既習のテキストを活用する。</p>			
<p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第 12 条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			